

「おもてなしの心日本一」実現に向け 全力で取り組む

2月28日、金子健次市長が、平成26年第1回柳川市議会定例会で26年度の所信表明を述べました。その一部を紹介いたします。

住んでよし、訪れてよしのまちづくり

今年、1市2町が合併して10年目の年を迎えます。本市の人口は、合併当時7万6000人でしたが、現在では7万人にまで減少し、少子高齢化も進んでいます。

私たちは、合併以前から続いていた少子高齢化や人口減少に対応し、1市2町が将来に向けて継続的に発展していくよう行財政基盤を強化し、効率的なサービス体制で複雑・多様化する住民ニーズに添えていくことができるよう合併を選択しました。

あれから9年、目指すところに到達するためには、まだまだ多くの努力を積み重ねていく必要があります。

私は、まず新市の基盤作りとして、合併特例債が活用できるうちに、ごみ

焼却施設や火葬場の建設、西鉄柳川駅の周辺整備、小中学校や市営住宅の改築、さらには市民文化会館の建設、庁舎統合などの懸案事項をしっかりとやり遂げたいと考えています。

さらにこれらのハード事業と併せて、ソフト面でのまちづくりを進めていく必要があります。まずは交流人口を増やし、柳川ファンを増やして定住人口を確保できるような仕組みをつくるのが大事だと考えています。つまり「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりです。

私の提唱している「おもてなしの心日本一」は、このようなまちづくりの土台であり、よりどころとなるものです。自分の住むまちを愛し、誇りの持てる暮らしやすいまちであればこそ、訪れる人も魅力を感じ、また来たい、住みたいと思うのです。おもてなしのま

ちづくりで職員が変わり、市民が変わることによって、活性化の好循環が実現されていくものと信じています。

1月19日に「おもてなしシンポジウム」を開催し、2月6日には、市内39の団体代表で構成する「おもてなし柳川」市民会議を発足させました。今年、市民を挙げて柳川の流れを変え、記念すべきスタートの年となりました。現在、柳川雛祭りさげもんめぐりに併せて、さまざまなおもてなしのイベントが行われています。私は、市民の皆さんとともに「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりに向け、先頭に立って取り組んでいきます。

昨年の市長選挙に当たって、私は次世代の柳川をひらいていくための6つの政策を掲げました。その実現を目指して平成26年度に取り組む主要な施策の概要を述べたいと思います。

漁業が元気になることが肝要です。本市の農業は、土地利用型の米、麦、大豆の生産高が県下でも有数の産地であり、イチゴ、ナス、トマト、アスパラガスなどの園芸作物、オクラ、レタスなどの露地野菜の生産も盛んです。引き続き、農業経営の効率化や担い手の支援、農地集積などを推進していきます。

一方、国では新たな農業・農村政策の見直しが行われています。農地の集積を図る農地中間管理機構の創設や経営所得安定対策の見直し、水田フル活用と米政策の見直し、さらには、農地、水路などの管理や、農村環境の保全のための日本型直接支払制度の創設といった4つの改革が打ち出されました。

中でも米政策においては、米の生産調整の配分、いわゆる減反政策が5年後には廃止され、国の生産調整に頼らず、ニーズに合わせた地域での調整が

必要になってきます。将来の柳川の農業をどう振興させていくのか、生産者の皆さんの意見をしっかりと聴きながら対応していきます。

漁業の面では、かつて宝の海と呼ばれた有明海も漁場環境が大きく変わり、魚介類の漁獲高が激減し、ノリ養殖も価格の低迷や生産コストの増大など大変厳しい状況にあります。

有明海再生特別措置法に基づき、有明海環境の変化について調査を実施するとともに、二枚貝の大量死の原因調査や夏季における貧酸素水塊をなくすための具体的方策を講じるなど、有明海再生に向けた取り組みを国県に強く要請していきます。

また、ノリ養殖業の持続的発展を支えるために、外国産ノリの輸入割当と輸入枠の堅持、さらにはノリの原料原産地表示を義務付けることも併せて要請します。

自主防災組織を育成し 各地区で避難訓練を実施

まず1点目は「災害のないまち柳川」です。おととしの九州北部豪雨災害を教訓として、国と県で実施されている矢部川、沖端川の災害対策事業を本市としてもしっかりと支援するとともに、防災・減災対策を推進します。

まず、市民への連絡体制の強化のため、昨年の防災行政無線の整備に続き、今月中には、行政区長や民生委員、消防団幹部などの自宅に個別受信機を設置することになっています。また、設置を希望される人に対しては、受信機購入費用を助成して設置を進めていきます。

高齢者や障害者など避難する際に援助が必要な人への対策については、支援をする自主防災組織を育成すると

商店街については、地域の暮らしを支える生活基盤として、地域の振興や伝統文化にも大きな役割を果たしています。これまで、市内商店街の役員の方々に定期的に集まってもらい、商工会議所、商工会職員も含め「市内商店街合同会議」を開催し、各商店街の課題解決のため協議を進めてきました。

現在、柳川商店街では、経済産業省の地域商業再生事業の採択を受け、マルシヨク跡地活用に向けた「地域状況調査分析事業」に取り組んでいます。この結果を踏まえて、柳川商店街振興組合と今後の対応を十分協議していきたいと考えています。

消費者行政の面では、主にお年寄りを狙った悪質な「おれおれ詐欺」や「押し売り商法」「インターネット詐欺」などが後を絶たず、本市に設置している柳川・みやま消費生活センターにも多くの電話や来所による相談が寄せられています。今後も国の消費者行政活性化基金などを有効に活用して、現在の消費生活センターの機能を維持・強化するとともに、消費者犯罪を未然に防ぐための啓発冊子の配布や出前講座などを積極的にを行い、被害の防止に努めていきます。

企業誘致については、有明海沿岸道路の整備や、みやま柳川インターチェンジの開通により、交通の利便性が非常に高くなり、企業誘致の条件が整って



▲七ツ家の「梅の木街道」で行われた、七ツ家老人クラブによるおもてなし。市民一人ひとりのおもてなしが柳川の魅力を高める



▲蒲池公民館で2月21日に開催された、防災地域づくり研修会。約100人の地域住民が災害時の連絡体制などを確認した



▲マルシヨク跡地で開催されている、柳川商店街の辻門市場。巨大さげもんも飾られ、多くの人でにぎわった



市議会定例会で所信表明を述べる金子市長

きています。現在、事業者向けの用地のリストアップを行っていますので、それを基に県と連携して企業誘致に向けて取り組んでいきます。

白秋生誕130年記念に 北原白秋サミットを開催

3点目は「観光と文化の薫り高いまち柳川」です。まちや掘割が美しく保たれ、誰もが気持ちよくあいさつし、親切なまち。住む人が心地よいまちは、訪れる人も心地よいものです。市民を挙げて「おもてなしの心日本一」を目指すことによって、「もう一度行きたい」という柳川ファンを増やし、年間150万人の観光客を目指します。

今年、柳川雛祭りさげもんめぐり20周年を記念して、1月に「おもてなしシンポジウム」、3月には「さげもんミニフェスタ」などを開催し、従来のイベントと併せて柳川の魅力を発信しています。

昨年から実施している「水郷柳川ゆるり旅」も、今年の春は30のプログラムを用意しました。これは、さげもんめぐりで賑わうなか、柳川ならではの歴史や文化、食などを体験して楽しんでらおうというもので、いわゆる着地型観光によるおもてなしとして取り組んでいるところです。

来年1月25日には北原白秋先生の生誕130年を迎えます。白秋先生の顕彰を深め、子や孫に継承していくと、健康で生き生きと暮らせる人が増えるよう期待しています。

本市の人口減少に歯止めをかけるため、これまで空き家バンク制度やマイホーム取得支援事業、新婚世帯家賃支援事業、柳川暮らし体験居住事業、地域おこし協力隊事業などに取り組み、一定の成果も出始めました。

現在、あめんぼセンター横の寄付を受けた空き家を改修していますが、これを都市圏の人などの体験居住施設として、また観光シーズンのまち歩き休憩施設などとして活用を図り、定住化を促進していきます。

さらに、今年、今年定住化対策を総合的



▲整備がほぼ完了した矢ヶ部コミュニティセンター。26年度は、豊原、血垣、有明、藤吉校区のコミュニティセンターの整備を行う

にも、童謡創作の拠点となった神奈川県小田原市など白秋先生ゆかりの地の市長、町長に「白秋の故郷柳川」へおいでいただき、「北原白秋サミット」を開催することで、文化観光都市・柳川を全国にアピールしたいと考えています。

また、柳川らしい城下町の風情を伝える景観整備を進めるため、街並み整備の重点地区を設けて取り組んでいきます。

柳川の玄関口である西鉄柳川駅の改修においては、東西を行き来できる自由通路の整備もだいに進んできました。来年には、駅前広場などの周辺整備と併せて、エスカレーターとエレベーターを設置した便利でイメージアップした柳川駅に生まれ変わります。

子どもや高齢者、障害者が 安心して暮らせるまちに

4点目は「子育て福祉のまち柳川」です。子どもは柳川の宝であり、地域ぐるみで子育てを応援できるよう取り組んでいきます。

このため平成25年度と26年度の2か年で「子ども子育て支援事業計画」を策定し、計画的に事業を実施していきます。

子育てにかかる費用の面では、子どもの医療費負担の軽減を図るため、これまで入院助成を小学3年生までとし

に検討するため、市民の方や学識経験者などで「移住・定住促進会議」を設置し、新たに定住化対策のアクションプランを策定することとしています。

ごみ焼却施設や市民文化会館 などの基盤施設を整備

5点目は「便利で住みよいまち柳川」です。私の2期目の一番の課題は、合併特例債などの優遇措置を活用して、将来の柳川市に必要な基盤整備を、健全財政を維持しながらやり遂げることだと考えています。

昨年は、大和・三橋地区のコミュニティセンターの建設で、3月に垂見コミュニティセンターが落成したのを皮切りに、六合、大和、矢ヶ部、二ツ河、中島、中山の各校区内に近々完成し、旧柳川地区の校区公民館の改修も終わります。残りの4校区のコミュニティセンターや大和中学校、二ツ河小学校、中山小学校の校舎改築、スポーツ施設の改修も26年度中に完了することになっています。

また、みやま市と共同で取り組んでいるごみ焼却施設や火葬場の建設、さらには市民文化会館の建設、庁舎統合など、今後も大きな課題が山積しています。これらの事業については、合併特例債の活用期限である31年度までにやり遂げ、将来の柳川の礎としたいと考えています。

市民文化会館については、昨年8月



▲1月25日の北原白秋生誕祭で、白秋作詞の「落葉松」などを合唱する矢留小学校児童。来年は「北原白秋サミット」を開催し白秋を顕彰する



▲平成24年4月に開設した両開校区の学童保育所

ていたものを、今年の10月から中学3年生までに拡大し、所得制限も撤廃することにしています。

学童保育については、現在15校区で実施していますが、4月から大和、有明、中山の各校区に設置するなど子育て支援を充実させていきます。

また、高齢者や障害者が安心して暮らせる環境づくりのため、新たな施策としてごみの「福祉収集」を始めることにしました。高齢者や障害者の中にはごみを収集場所まで持って行くことが困難な人もいますので、個別に家の前まで収集に行くものです。ごみ出しがないような場合は、安否確認も行うようにしたいと考えています。

から5人のアドバイザーにより基本構想と建設候補地を検討してもらい、先日、提言をもらいました。私はこの提言を尊重して、皆さんのご理解をもらいながら進めていきたいと考えています。

また、快適で住みやすい生活環境をつくるためには、道路、水路の整備と維持管理が不可欠です。懸案であった大牟田川副線の沖端川大橋が昨年着工され、有明海沿岸道路や国道385号バイパスの建設、443号バイパス完成など幹線道路の整備については大きく進んできました。さらに行政区からの要望が多い生活道路や水路の整備についても着実に進めていきます。

行政財政改革を行い 健全財政を確保

6点目は「市民目線で行革のまち柳川」です。22年に第2次行政財政改革大綱を策定し、これまでの4年間で一定の成果を上げてきましたが、今後、合併の優遇措置がなくなるときのことを想定して、今更以上に行財政改革を進め行政のスリム化を図っていく必要があります。

このため、26年度中に第3次行政財政改革大綱を策定し、人件費などの削減を図るとともに、経費の節減、税収や各種使用料など収入の確保に努めていきます。

健全財政を将来的にも維持し、安定

年老いて認知症になったとしても、住み慣れた地域での生活を望まれる人が多いと思います。このため認知症地域支援推進員を配置し、効果的な支援を行うため、推進員を中心として、医療と介護の連携や相談・支援体制の強化を図ります。

また、介護が必要にならないよう予防していくことも重要です。高齢者が自らの意思により楽しみながら介護予防に取り組んでいけるよう介護支援ボランティア事業を進めます。

これは、登録した高齢者が高齢者福祉施設などで行ったボランティア活動や介護予防教室、健康教室に参加した場合のポイントをもらい、たまったポ

的な財政運営を行っていくため、本市の財政状況を正確に把握し、中期的な財政収支を見通して26年度から30年度までを計画期間とした「中期財政計画」を策定しました。これに基づいて計画的な財政運営を図っていくことにしています。

一方で地方自治体の財政は、社会情勢の変化や国の制度改正、地方財政制度の動向に大きく左右されますので、今後も必要に応じて、最新の情報に基づいた計画の見直しを行っていくことにしました。このことによって、さらに現実的で実効性のある計画となり、健全財政を確保していくことができるものと確信しています。

以上、意を尽くしますが、市政運営に関する私の所信の一端を申し述べました。

これらの施策を実現するため職員とともに全力で取り組んでいきますが、これは行政の力だけでできることではありません。「オール柳川」の意識を持って、市民の皆さんと議会と行政が一丸となって取り組んでいくことが必要です。

来年は合併10周年という節目の年を迎えます。市民の皆さんが、合併して本当に良かったと思えるまちになるよう頑張っていきますので、どうか皆さんの一層のご理解とご協力を切にお願ひ申し上げます。